

社会福祉法人晋栄福祉会

「ディタさん」は頼もしい先輩!

(総称) 中山ちどり

介護福祉士 プラディタ ソフィアナさん (33歳)

中山ちどり(宝塚市)で働くインドネシア出身のプラディタ ソフィアナさん(ディタさん)は、同じ施設の外国人スタッフから頼りにされる、面倒見がよい先輩だ。来日して9年。異文化の中での苦労やこれからの目標について、お話しいただいた。(写真:岩佐俊英 文:和田依子)



ディタさん(デイサービスのフロアにて)

ラマダン明けに、家族を思う

—— 日本に来たきっかけは？

私はインドネシアのジャカルタの出身です。都会の中で育ちました。私は長女で、下に弟と妹がいます。幼い頃はやんちゃな女の子で、男の子といっしょに木登りをして遊んでいました。

大学で4年間看護を学んで1年間実習をしました。看護師として病院で1年弱働いていたとき、先輩の看護師から「EPAのプログラムがある。日本で働きながら介護士の国家資格を取れるよ」と教えてもらいました。いつか外国で働きたいと思っていたので、すぐに応募しました。

—— 来日後のことを教えてください

2016年6月に来日して、愛知県にある学校で6か月間、日本語の勉強をしました。12月に晋栄福祉会に入職して、中山ちどりの特養とショートステイで働きました。その後、特養のフロアを7年間担当しました。2022年、介護福祉士の国

家試験に合格し、フロアのサブリーダーになりました。「外国人なのに責任を持つのは、大変だろうな」と思いましたが、リーダーや丸山副施設長が何でも相談にのってくれたので、安心できました。

—— 文化や言葉の違いで大変なことはありましたか

インドネシアの人は結構マイペースな働き方をします。でも、日本では時間に厳しいし、仕事も早いので、慣れるまでに少し時間がかかりました。日本語は漢字が難しかったです。外食するとき、イスラム教では食べてはいけない豚肉が料理に入っていることが多くて困りました。

ご家族やご利用者さんに対しては、法人の職員さんが事前に説明をしてくださっているので、困ったことはあまりありませんでした。ご利用者さんのお手伝いをしたあとに、「ありがとうね」とお礼を言われると、とてもうれしいです。

—— 職場では、宗教的な習慣は配慮されていますか

イスラム教では1日に5回お祈りをします。職場でもお祈り用の部屋を用意してもらっています。また、ラマダン*(断食)の間も仕事はするのですが、体力的にきつくなる入浴介助は、ご利用者の安全面も考えて、他の人に代わってもらいました。ありがたいことだと思っています。

インドネシアではラマダン明けに、家族全員が揃って食事をしてモスクに行くという、日本でいうお正月のようなお祭りをします。こちらに来てからは、その日はお休みをいただいて、神戸にあるモスクに行きます。皆でお祈りをして、いっしょにお弁当を食べますが、「今は家族に会えないんだな」と寂しい気持ちにもなります。



ケアマネジャーの資格取得をめざす

—— 他の外国人スタッフとは仲がいい？

仲がいいです。日本に来たばかりで、日本語で自分の意見をうまく言えない人には、日本人スタッフとの間に入って、伝えてあげたりします。

法人が借りているUR 団地の社宅には、20人以上の外国人スタッフが住んでいますが、ときどき誰かの家に集まってご飯を作って、いっしょに食べます。おもにインドネシアの後輩たちですが、同じユニットで働いているフィリピンの人を呼ぶこともありました。ご飯を食べながら、仕事の悩みを聞いたり、「どこの病院に行けばいいの？」など、生活の相談にのったりします。

大晦日の夜には「お寺では何をするのかな？」と思って、みんなで中山寺に行ったりもしました。

—— 日本で結婚と出産をされたそうですね

2023年、別の法人で働いているインド

ネシアの男性と結婚しました。EPA で来日したときの同期です。次の年に息子が生まれました。産休と育休を取って、今年7月に職場復帰しました。役所の子育て支援の手続きや保育所の申し込みは難しかったのですが、支援スタッフの方が手伝ってくださったのでありがたかったです。息子を出産したあと、団地の隣と上下階の部屋に、「子どもが泣いてうるさくなるかもしれません」と手土産を持って行きました。あとで「この前はありがとう」と挨拶してもらいました。

今は、朝、8時半に子どもを保育所に送って行き、9時から4時まで仕事をして、4時半に迎えに行くという生活をしています。

—— 今後、どんなことをめざしていきたいですか

今年10月にデイサービスに異動になりました。特養のユニットと違ってご利用者さんは皆さんお元気でお話もできて、レクリエーションも楽しいです。ただ、合計100人近くの方のお名前や飲み物の好みなどを覚えなければいけません。ここに来られている短い時間の中で、その方



ヒジャブの中からのぞく笑顔

の変化に気づかなければならないのはひと苦労です。

今、デイサービスの経験を積んで、ケアマネジャーの資格を目指しています。これからは在宅系の介護にもチャレンジしていきたいです。プライベートでは、子どもと一緒に家族で安全に楽しく過ごして、できれば子どもはもう一人ほしいですね。

*ラマダン…イスラム教徒が断食を行う時期のこと。ひと月間、日の出から日の入りの間は、水や食べ物を口にしない。

多文化共生社会、社会福祉法人がバックアップ



お話: 社会福祉法人 晋栄福祉会

中山ちどり副施設長 丸山 聖平さん



「採用と教育」から「定着と活躍」へ

晋栄福祉会(大阪府門真市)は、2009年、EPA(経済連携協定)による介護福祉士候補者を2名受け入れて以降、グローバル人材の活用を先駆的に進めてきました。

2015年、これを法人の重点プロジェクトと捉え、グローバル戦略推進委員会を立ち上げました。グループの介護施設の担当者が集まり、採用活動や定着支援、介護福祉士国家試験対策、職場での課題などを毎月、情報共有するようにしました。職場では、外国人職員の生活面などの相談に乗る支援スタッフと語学習得を支援する語学スタッフを1人以上配置しています。銀行口座の開通や行政手続きなどにも同行します。

現在、中山ちどりではインドネシアなど4か国から来た34人が活躍しています。法人の高齢者施設全体では、職員およそ

1000人のうち190人が外国人。離職率は日本人職員の3分の1程度と低く、彼らは事業継続にとって必要不可欠な存在です。法人の重点方針は「採用と教育」から「定着と活躍」へと変化し、「一過性の労働力」ではなく「生涯のキャリアパートナー」と捉え、人生に寄り添った支援をしているところです。

外国人職員が何でも相談ができる人間関係をつくるのが大事です。困り事があれば、すぐに手を差し延べなければ信頼関係は生まれません。中山ちどりでは2年前から、外国人職員を公正に評価するため、業務の進捗を「見える化」するシートを導入しました。「できたこと、できていないこと」を3か月毎に外国人職員と日本人のフロアリーダーが確認し目標を共有します。シートの導入は、顔を合わせて話す機会を増やし、いろんな相談がで

きる関係を作るといふねらいもあります。

地域社会の支え手になれる人に

専門職のキャリアアップも仕事のモチベーションを上げるために重要です。「外国人だから管理職はできない」という意識を本人だけではなく私たちも持たないようにしなければなりません。

現在、中山ちどりでは、ディタさんにデイサービスにおけるサブリーダーを担っていただいています。今後は、在宅サービスにも携わることで、さらに活躍の幅を広げてもらいたいと考えています。

彼女は、外国人職員と日本人職員の橋渡し役として重要な役割を果たしており、生活面においても外国人同士が助け合う文化を育みながら、地域社会にも自然に溶け込んでいます。外国人職員が、高齢化が進む地域社会の新たな支え手となれるよう、私たち法人としても引き続き支援していきます。多文化共生社会をバックアップしていくことも、社会福祉法人に求められる大切な地域貢献の一つであると考えています。



中山ちどり 『本当に優良な介護施設ベスト20』(週刊現代特集)に選ばれました!!

介護職員(正職員・非常勤)募集中!!

お申し込み、お問い合わせは、以下までお気軽にご連絡下さい

T665-0877 兵庫県宝塚市中山桜台1-7-1

TEL: 0797-82-0201 FAX: 0797-82-2525

アクセス

阪急宝塚線『中山観音』駅より
阪急バス(南口)86・150系統乗車、
『センター前』下車、徒歩1分

申し込み

お電話、又はHP↓より
www.chidori.or.jp